

選ばれるまち・選ばれる施設へ向けた
政策提言書



沼津商工会議所青年部
創意工富ぬまづ未来委員会

沼津市長 頼重 秀一 様

令和2年2月、「日本商工会議所青年部第39回全国大会ふじのくに静岡ぬまづ大会」が沼津市で開催され、沼津商工会議所青年部が開催地単会として設営を手掛けました。

この全国大会は平成26年関東ブロック大会かながわ藤沢大会の誘致合戦の末に決定し、7年以上の構想を得て実現しました。静岡県内で開催する全国大会は平成2年以來であり、29年ぶりの県内開催でした。

大会会場であるプラサヴェルデには、7,000名を超える、全国の商工会議所青年部の同志が集いました。商工会議所青年部の全国大会は全国各地で毎年開催されていますが、この全国大会は過去最大の参加人数を記録しました。

当青年部は、このような大規模なイベントを設営したからわかったことを沼津市と共有し、大会会場であるプラサヴェルデを「選ばれる施設」にするため、政策提言書を作成することにしました。

このような大きな規模のMICEを誘致するにあたり、主催者側から感じた問題点・改善点をまとめ、コンベンション関係者に「選ばれるまち・選ばれる施設」へとなる取り組みの一環として参考にしていただきたく、提言いたします。

令和4年3月30日

沼津商工会議所青年部
会長 山田 貴志
創意工富ぬまづ未来委員会
委員長 吉川 正明

選ばれるまち・選ばれる施設へ向けた政策提言 項目一覧

①行政との連携について

- (1) イベントコンシェルジュの新設
- (2) イベント開催用 WEB システムの構築

②交通・利便性向上に向けて

- (1) 南北自由通路の早期着工
- (2) 案内看板等の統一化
- (3) ご当地自動販売機の設置

③これからの時代に選ばれる施設へ

- (1) ハイブリッド型会議への対応
 - ア. 通信環境の安定 (Wi-Fi 環境の充実)
 - イ. オンライン配信専用ルームの設置および電源まわりの改善
- (2) テレワークのために人が集まる施設
- (3) 指定管理者のサービス向上に向けて

※詳細については、別紙をご覧ください。



選ばれるまち・選ばれる施設へ向けた提言書 (別紙説明資料)

令和4年3月30日

沼津商工会議所青年部
創意工富めまづ未来委員会



1. 全国大会を終えて	3
2. 選ばれるまち・選ばれる施設に向けた提言	4
提言① 行政との連携について	5
(1) イベントコンシェルジュの新設	
(2) イベント開催用WEBシステムの構築	
提言②交通・利便性の向上に向けて	13
(1) 南北自由通路の早期着工	
(2) 案内看板等の統一化	
(3) ご当地自動販売機の設置	
提言③これからの時代に選ばれる施設へ	23
(1) ハイブリッド型会議への対応	
(2) テレワークのために人が集まる施設	
(3) 指定管理者のサービス向上に向けて	
3. 委員会メンバー	31

大会名称：日本商工会議所青年部 第39回全国大会 ふじのくに静岡ぬまづ大会

開催日時：2020年2月19日（水）～23日（日）

参加者数：7,703名

大会テーマ：**創意工富**～日本一高い志と、日本一深い絆で創ろう！YEG新時代～

施設及び周辺でのプログラム：

2/20 日本YEG諸会議

2/21 会員総会・各分科会・大懇親会・物産展

2/22 記念式典・記念講演・記念事業・日本YEG諸会議・物産展



△キャッシュレス・ポイント還元事業視察



△経済産業省
副大臣 松本洋平氏



△記念式典



△全国大会ガイドブック『ぬめぶ』



△物産展でのキャッシュレス決済

本提言書を作成するにあたり、当時の大会実行委員会メンバーへ「全国大会の振り返り」と「大会を通じて感じた施設への要望」などのヒアリングを行い、各章の「全国大会を振り返って感じた課題」という項目にまとめてある。

<提言内容一覧>

① 行政との連携について

- (1) イベントコンシェルジュの新設
- (2) イベント開催用WEBシステムの構築

② 交通・利便性向上に向けて

- (1) 南北自由通路の早期着工
- (2) 案内看板等の統一化
- (3) ご当地自動販売機の設置

③ これからの時代に選ばれる施設へ

- (1) ハイブリッド型会議への対応
 - ア. 通信環境の安定 (Wi-Fi環境の充実)
 - イ. オンライン配信専用ルームの設置および電源まわりの改善
- (2) テレワークのために人が集まる施設
- (3) 指定管理者のサービス向上に向けて

①行政との連携について

【提言内容】

- ・ 提言①（1）イベントコンシェルジュの新設
- ・ 提言①（2）イベント開催用WEBシステムの構築

① 行政との連携について

【提言の背景】

プラサヴェルデの所在地である沼津市には、静岡県東部11市町で構成する『静岡県東部地域コンベンションビューロー』があり、国内外の各種コンベンションを積極的に静岡県東部地域誘致し、開催のサポートをする窓口がある。しかし、大規模イベントを開催する際は、各種申請を静岡県や沼津市・警察・消防等に直接提出する必要があるため、行政との連携が必要不可欠である。

実際に、当イベントを開催した際も静岡県・沼津市をはじめ、各種申請書を提出した経緯がある。しかしながら、静岡県・沼津市などは多くの部署にまたがっており、イベントをする際に「何の申請書を記載すればよいかわからない」、申請先の部署で「同じ説明を繰り返す必要」があった。

そのため、スムーズに申請をすることができず、申請漏れなどがあるのではないかと不安になってしまった。

① 行政との連携について

【全国大会を振り返って感じた課題】

本大会は、【MICEによるプラサヴェルデの有効活用】を目的に誘致し、「大規模イベントの実施」と「沼津駅周辺の回遊性」の実証実験をする意味合いも兼ねた大会だった。メイン会場であるプラサヴェルデは、沼津駅から徒歩3分に位置しており、小規模な会議や数千人規模の式典・懇親会・宿泊まで全てが1か所で完結できる素晴らしい施設である。その会場を使用して、全国各地から7,703名を集めて行った大規模なイベントとなった。

メイン会場にプラサヴェルデを使用することで会場を集約することができ、過去の青年部の全国大会と比較してもコンパクトなエリアで開催できた大会だった。実際に参加者からも回遊性・利便性の高さに驚きの声があった。

しかしながら、本大会を通じて様々な反省点や問題点等があった。例えば、施設管理の面で静岡県・沼津市と管理する場所が分かれていることによる備品の使用制限・各申請項目が煩雑、相談窓口がばらばらだったことなど主催者側としては不便な面があった。

本章では、「**イベント専門のコンシェルジュによる各種申請の一本化**」「**イベント開催用WEBシステムの構築**」など、主催者側の立場から改善点などを提言する。

大会を終えて思うことは、まだまだこのプラサヴェルデの使い方には主催者や来場者により満足いただけるような可能性を秘めていると確信している。本提言が今後の**沼津市並びにプラサヴェルデがコンベンション関係者から「選ばれるまち・選ばれる施設へ**」となるための一助になれば幸いである。

【提言 ①（１） イベントコンシェルジュの新設】

全国大会各部会の意見を取り纏めた結果、沼津市で開催する各種イベントに関わる事柄について幅広い知見を有した「イベントコンシェルジュの新設」が必要であるという結論に至った。イベントコンシェルジュを設置することで、各種申請を一括に行うことが可能となり、コンベンション関係者から「沼津市・プラサヴェルデ」が「選ばれるまち・選ばれる施設」になると考えられるため、沼津市観光戦略課内に「**イベントコンシェルジュの新設**」を提言する。

イベントコンシェルジュの定義

沼津市におけるイベント等に関する相談・各種手続きなどを一括してサポートする総合窓口の専門家（コンシェルジュ）

イベントコンシェルジュの機能

- イベント等における相談業務・各種申請資料の案内
- 静岡県への手続き等の一括取りまとめ対応
- イベント開催における申請支援（警察・消防・保健所等）
- イベント開催における広報活動及びイベント誘致活動の促進
- 近隣施設、商店街等の連携による、地域への経済波及効果増加

沼津市では、これまでに部署の枠を超えたスポーツ振興プロジェクトチームを立ち上げ、フェンシング合宿の誘致、自転車競技の振興、アスルクラロ沼津の支援などをスポーツを通じた地域活性化に大きな成果を上げている実績がある。

そのため、イベントコンシェルジュも同様に「**イベントコンシェルジュプロジェクトチーム**」の立ち上げを提言する。

現在、観光戦略課内にコンベンション推進係があるため、プロジェクトチームを観光戦略課コンベンション推進係内に設置するのが望ましいと考えられる。

また、コロナが収束後、イベントなどが盛んになることが容易に想像することができることから早期の設立を望む。

<沼津市> ウィズスポーツ課新設の事例

平成28年 公民連携PT（プロジェクト）の立ち上げ
平成29年 スポーツ交流推進室（観光戦略課内に設置）

2020東京オリンピックを起点にスポーツの更なる振興と観光交流人口の増加を目指し産業振興部内で組織活性化、年を追うごとに規模拡大

令和2年度 スポーツ振興課
（施設管理・使用受付、各教室開催、各大会実施）
スポーツ交流推進課（スポーツを活用した地域産業振興）

令和3年度産業振興部ウィズスポーツ課 新設

<参考> 行政が公共空間の占用申請等を一括して行う事例

茨城県つくば市ではイベント開催時の障壁である占用申請等の煩雑さを解決するため、ワンストップ窓口を開設し、主催者の支援を行っている。

この事例では、都市計画部学園地区市街地振興室が窓口となり、主催者からの提案に対するアドバイスや、事前相談を受けるのはもちろん、市が共催（占用許可等申請者）となることで、本来主催者が行わなければいけない申請を市が代行することが可能となっている。

1 公共空間の占用申請等を一括して行うワンストップ窓口 ～つくば市①～ 国土交通省

いつも何かやっているわくわくしたまちなか創出を目指し、市民団体等によるパブリックスペースの活用を促進させるために窓ロー元化及び手続き等の各種支援を実施（団体が得意な事項を市が支援）

都市計画部学園地区市街地振興室

つくばベテカフェプロジェクト

- | | |
|--|--|
| <p>【企画段階での支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> つくばベテカフェ推進委員、つくばベテカフェガイドライン（利用手引き）の策定 民間まちづくり団体等の提案に対するアドバイス 公物管理部署、交通管理者等への事前相談 等 | <p>【許可・実施段階での支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市が支援する団体（つくばベテカフェ推進団体）への指定 市が共催（占用許可等申請者）となり、以下各業務 等 <ul style="list-style-type: none"> ・使用許可、占有許可等申請 ・広報 ・施設の貸出 |
|--|--|
- 【支援対象】
つくばベテカフェ推進委員に基づくベテカフェ推進団体が実施するにぎわいやコミュニティ形成に向けた取組

職員配置（R1・R2）：室長1名（事務職）、係長1名（事務職）、係員4名（事務職）



【提言①（２）】 イベント開催用WEBシステムの構築

前述の「イベントコンシェルジュの新設」で示した提言について、プロジェクトチームの立上げには組織体制の見直しなどが考えられる。そのため、第2案として人を配置しない沼津市ホームページ内に「イベント開催用WEBシステム」を構築することについて提言する。

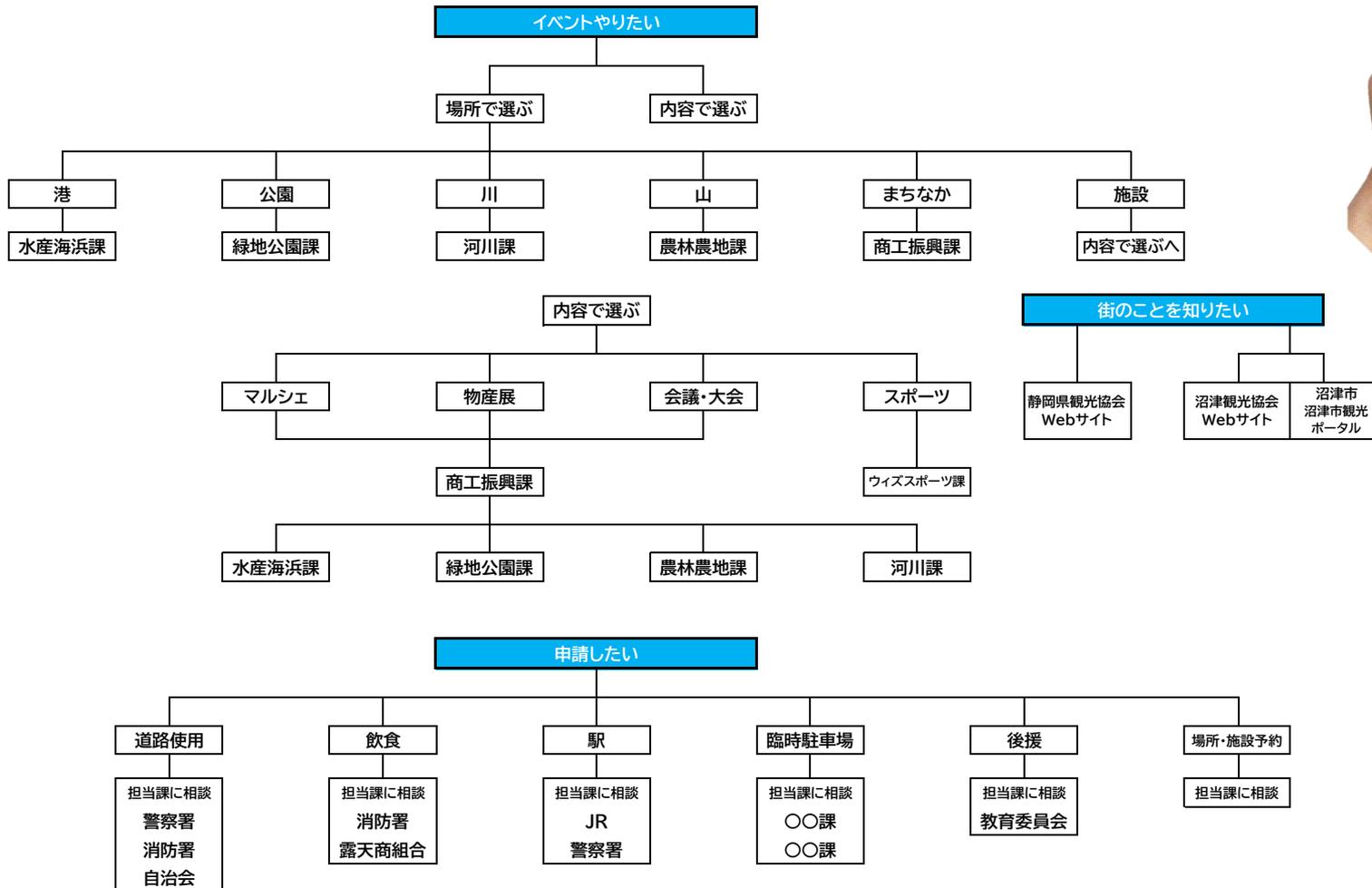
政府の方針によると、デジタル社会形成の司令塔として、未来志向のDXを推進するため、デジタル庁が開設された。また、デジタル化の推進として「中小企業デジタル化応援隊」「改正電子帳簿保存法」などが取り上げられている。

これを踏まえると、デジタル化に対応した「イベント開催用WEBシステム」が必要である。WEBサイトを活用する仕組みを構築することで人的資源を有効活用でき、MICEの誘致などコンベンション関係者に対して、PRすることができる。また、主催者が検討から申込までをWEBサイト上で完結できるワンストップサービスを提供できる。

WEB上で「開催場所」「開催内容」を選択することで必要書類の明記・各種申請書類のダウンロードを可能とし、利用者の利便性を高めることができる。また、過去に沼津市で行ったイベント内容の画像をアップし、主催者がイメージしやすいページにする。

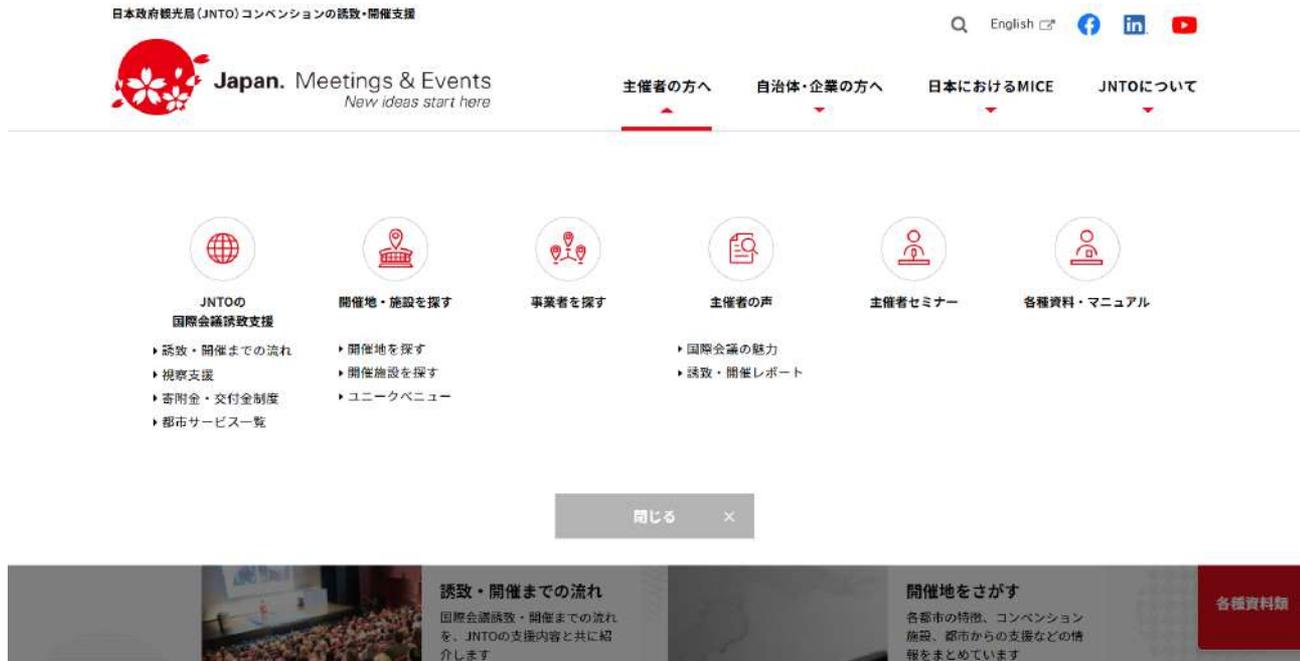
これらの「イベントコンシェルジュ」「イベント開催用WEBシステム」が現実化することで第5次沼津市総合計画の「まちづくりの方向性」の1つである「人が行き交うまち（交流人口拡大）」に寄与すると考えられる。

イベント開催用WEBシステム フローチャート（案）



<参考>

日本政府観光局（JNTO）ホームページ



イベント開催用WEBシステムの提言について、近しいイメージのWEBサイトを検索したところ、外郭団体であり、行政のサービスではないが「日本政府観光（JNTO）」のホームページがイメージとして近いため、参考資料として提示する。

②交通・利便性の向上に向けて

【提言内容】

- ・ 提言②（１）南北仮設自由通路の早期着工
- ・ 提言②（２）案内看板等の統一化
- ・ 提言②（３）ご当地自動販売機の設置

②交通・利便性の向上に向けて

【提言の背景】

メイン会場であるプラサヴェルデ（沼津駅北口）から繁華街である沼津駅南口へ往来する人が多かった。

沼津駅の南北を縦断する場合、駅の西側のあまねガードを通過するか、JR駅構内の跨線橋(こせんきょう)を通過するしかないが、JRの切符が売り切れてしまい通行が不能になるという状況に陥った。また、交通系ICカードは南北を通行するためのものでないため、JRからICカードでの通行を控えるように依頼があった。そのため、このようなイベントを開催すると同様の問題が発生するため、南北自由化の重要性をより一層感じた。

沼津駅北口からプラサヴェルデまでの間に、案内看板はあるが、統一性がなく来場者がわかりにくい状況である。沼津市の美観のことを考えると、新しい統一性のあるデザインを検討する必要がある。

沼津駅北口には、静岡県を代表するコンベンション施設があるにもかかわらず、沼津をPRするお土産売り場がない。県外から来た方々に、沼津をPRするためにも、沼津駅北口付近にアンテナショップ等の設置の重要性を感じた。

②交通・利便性の向上に向けて

【全国大会を振り返って感じた課題】

交通部会では、全国各地からの商工会議所青年部メンバーに対して、駐車場の案内や会場周辺の案内を行った。会場であるプラサヴェルデは、沼津駅から徒歩3分に位置しており、回遊性・利便性の高い施設であるが、沼津駅に近接しているため、周辺に大型バスを止められる駐車場がないなどの課題があった。

特に当部会での問題点は、沼津駅を經由して南北通行をする人が多く、その際に沼津駅の入場チケットが無くなり、沼津駅を經由しての南北通行が出来なくなってしまうことがあった。このことはプラサヴェルデが、国際的な会議や大規模なイベントを行う施設のため、これらの会議等を行った際の課題となる。そのため、当部会では**沼津駅における「南北自由通路の早期着工」**を提言する。

また、プラサヴェルデは沼津駅から3分という好立地にあるにもかかわらず「場所がよくわからない」、「迷ってしまった」などの声を多数聞いたため、地元民には気づけない「案内の不親切さ」が露呈する形となった。そこで、誰が見てもわかるように**「案内看板等の統一化」**について提言する。

物産展部会では、沼津駅北口広場とキラメッセ北側の道路（七通線）を一部封鎖し、市民参加型の大物産展を開催した。静岡県内の物産品や特産品を揃えることができ、全国各地から集まった商工会議所青年部メンバーに対して、静岡県の魅力を発信することができた。

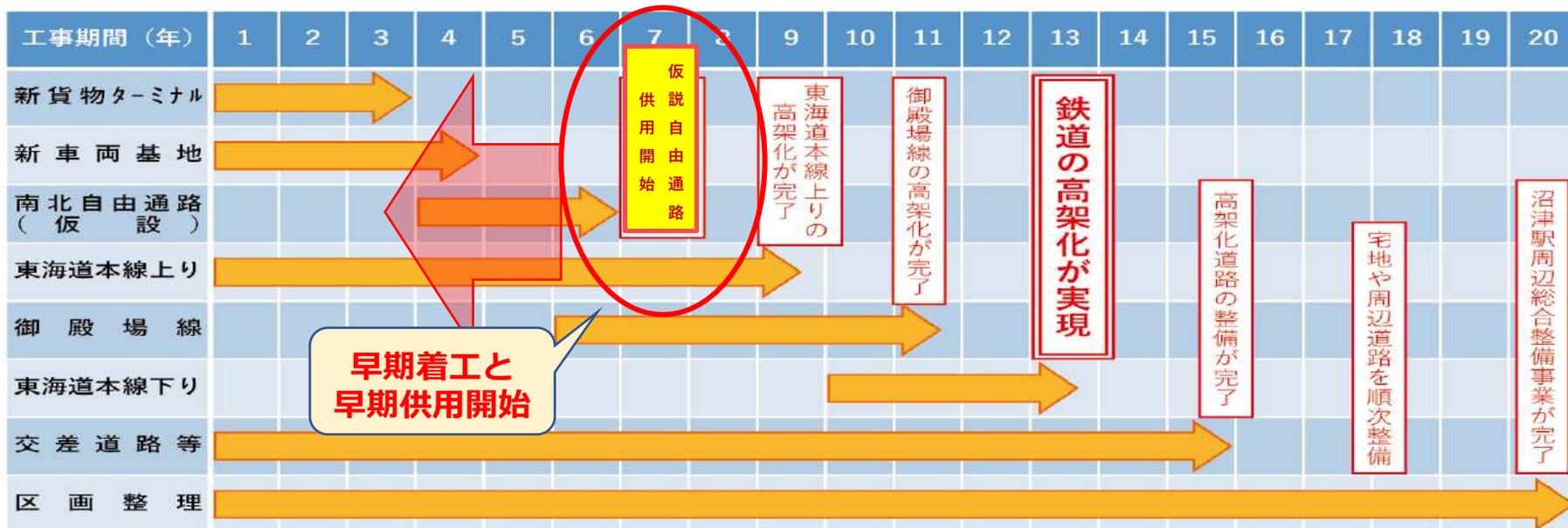
しかし、参加者からは、物産展以外にお土産を買う場所がないという声も多数寄せられ、アンテナショップ等が存在しないデメリットを感じる事となった。そこで、当部会では沼津駅北口に**「ご当地自動販売機の設置」**を提言する。

【提言②－（１）】 南北仮設自由通路の早期着工

沼津市では“沼津市中心市街地まちづくり戦略”に取り組んでおり、第3章“まちづくりの潮流と沼津市の取組”では「②沼津駅周辺総合整備事業の推進」を掲げている。

この事業の中核である鉄道高架事業における工事の途中段階で、駅南北を接続する南北自由通路(仮設)が整備されるが、着工してから7年後の供用開始となっている。

南北自由通路計画は、高架事業により駅周辺の回遊性向上を実現する第一歩であるが、仮設の自由通路の供用開始までに7年の月日を有することで、多くの経済的機会損失も発生する。より早期の自由通路供用開始を望む。



〈沼津駅周辺総合整備事業 工事着手後の進捗イメージ〉

【提言② - (2) 案内看板等の統一化】

「沼津市ユニバーサルデザイン推進のための基本方針」に則り、フォント・色の統一や歩道への誘導サイン等を行い、駅北口を訪れた全ての人に対し、視認性が高く 周辺環境への調和に配慮したデザインへ一新することを望む。

なかなか上に目線がいけないため、アーケードの看板は視野に入りにくい。



コンビニエンスストアを右折すると、見えるはずの看板は、のぼり旗の影響もあり、見えにくい。破損している案内表示もある。



北口より、所々に案内表示はあるが、視野に入りにくい。大きさの問題か？



改札口を出て右手にエリアマップあり。正面ではないのでわかりにくい。



駅北口周辺には、JRが設置したものや寄贈の看板もあるが、キラメッセぬまづと表記されているものもあり、名称の統一がされていない。



【提言② - (2)】案内看板等の統一化



上図は、沼津駅北口を出てからプラサヴェルデへの動線である。赤丸でプラサヴェルデへの誘導サインをマークしてある。しかしながら、視認性の悪さは誰が見ても明らかである。大型のコンベンションを誘致する上で、会場へ誘導するサインの分かりやすさは必要である。



渋谷駅



品川駅



成田空港

上図は、都心部の公共交通密集地ということもあり、表示に色を用いたり、歩道にペイントをして誘導を促している。このような取り組みにより、地図を見ることなく、直感的に目的地にたどり着くことが可能である。

【提言② - (2)】案内看板等の統一化



上図は、沼津駅北口近辺に掲示してある駅周辺図である。それぞれ左から、ライオンズ・沼津市・JRが作成している。来訪者の視点から考えると、統一感や連動性のある案内図が望ましい。また、上図の右の2つは、双方とも南向きに設置されている。駅北口に降りた際、目的地は駅北部にある可能性が高いことを考えると、周辺図は北向きに設置されたものが必要である。



三島市



伊豆市

左図は、近隣市街地の案内図である。見やすい場所に大型看板を設置し、来訪者が分かりやすいように工夫している。観光地においては、ターゲットを観光客に絞ったこのような取り組みは効果的であると考えられる。コンベンションや駅周辺公共機関の利用者が見やすい周辺案内図の設置が必要である。

<参考> 沼津市ユニバーサルデザイン推進のための基本方針

推進に関する主な考え方② **だれもが使いやすい施設や空間づくり**

課題 利用者の立場に立った、使いやすい施設とするよう取り組んでいく必要がある



取り組みの方向 4

市の施設やまちの案内板を体系的に整備するとともに、まちの景観と調和した分かりやすいサイン情報の提供を進めます

上記のように、沼津市ユニバーサルデザイン推進のための基本方針の記載がある。「取り組みの方向4」に記載があるように、まちの景観と調和した分かりやすいサイン情報の提供を望む

【提言②－（３）】ご当地自動販売機の設置

前述にも記載されているが、沼津駅北口において、アンテナショップなどのお土産を購入する場所がないことが課題となっている。そこで、アンテナショップについて調べたところ、2020年12月に一般財団法人地域活性センターが自治体アンテナショップ実態調査を行っており、全国には自治体が運営するアンテナショップは74カ所あるが、静岡県にはないことがわかった。理由としては、人件費・在庫リスク等、実際の運営が難しい状況などの理由から断念するケースが多いことがわかった。

しかしながら、昨今アンテナショップの代わりに、自動販売機の設置による土産物販売手法が各地で始まっている。人件費削減や感染症対策のための対人接触機会の減少も図れ、新たな販売方法として注目されている。近隣では、藤枝駅南口にある複合施設「オーレ藤枝」がご当地の自動販売機やふるさと納税ができる自動販売機を設置をしている。したがって、訪れた人へ沼津の魅力伝え、商品を購入してもらうためにも、沼津駅北口付近へアンテナショップに代わる自動販売機の設置を望む。



羽田空港に設置されているご当地自販機



J R 藤枝駅南口の複合施設「オーレ藤枝」

【提言②－（３）】ご当地自動販売機の設置

沼津市が実施した、歩行者交通量調査によると1日の沼津駅北口付近の交通量は約1万人となっており、このようなアンテナショップに代わる自動販売機の設置は、プラサヴェルデ利用者に限らず、沼津へ訪れた全ての人の目に止めてもらうためにも、沼津駅北口付近への設置が望ましいと考える。



△中心市街地歩行者通行量調査より出典

調査地点	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
ファミリーマート前	3,876人	3,229人	4,636人	2,783人	2,722人
北口駅広場西側	2,779人	2,705人	3,957人	1,832人	2,095人
BiViぬまづ北側	2,776人	3,126人	2,791人	1,242人	2,435人
BiViぬまづ西側	8,613人	5,447人	6,168人	2,912人	4,232人
合計	18,044人	14,507人	17,552人	8,769人	11,484人

③これからの時代に選ばれる施設へ

【提言内容】

- ・ 提言③ (1) ハイブリッド型会議への対応
 - ア. 通信環境の安定 (Wi-Fi環境の充実)
 - イ. オンライン配信専用ルームの設置
および電源まわりの改善
- ・ 提言③ (2) テレワークのために人が集まる施設
- ・ 提言③ (3) 指定管理者のサービス向上に向けて

③ これからの時代に選ばれる施設へ

【提言の背景】

ウイズコロナ時代においても、本施設を選んでいただくためには、ハイブリッド型をはじめとする様々なWEB会議をストレスなく開催できる物的なインフラの整備が不可欠である。

ちなみに「国際会議観光都市」という制度があるが、これはかかる認定を受けた都市へ、政府観光局から継続的な情報の提供や海外での宣伝がなされ、国際会議の誘致及び開催の支援が体系的に行われるものである。

残念ながら、現在、静岡県東部には国際会議観光都市が存在しない。プラサヴェルデという施設をより活かし、より選ばれる施設を目指し、ひいては沼津市が国際会議観光都市に認定される未来を切に願うものである。

コロナ禍において、リモート、テレワークなどが導入され、働き方にも変化がみられるようになってきた。下記は、日本経済新聞が人口10万人以上の285市区を対象にテレワークに適した環境が整っているかどうかを分析・採点した。総合点は40点満点。住宅面積、域内通信速度、人口あたりの公衆無線LANスポット数と貸しオフィス数の4項目を指数化して算出されたものである。

かかる統計において、なんと沼津市は全国で第5位である。このような特色をより発展させることができれば、それは都市そのものの魅力につながるだろう。

プラサヴェルデは、従来、MICE活動、企業といった団体利用に重きをおいた運用がなされてきたが、個人を対象としたテレワーク対応型の施設としての方向性を模索することも今後の検討課題とされたい。

③ これからの時代に選ばれる施設へ

【全国大会を振り返って感じた課題】

Wi-Fi環境はコンベンションぬまづにはフリーWi-Fiが整備されているものの、安定せず会議に支障をきたす場面があった。また、キラメッセぬまづにはWi-Fiが整備されておらず、式典時は工事を行い対応をした。

新型コロナウイルスの拡大に伴い、これまでになかった様々な形式・形態の会合・会議が考案され、実践されつつある。新型コロナウイルスの感染拡大は、決してMICE活動そのものの必要性を減殺したわけではない。むしろコロナ禍を契機に、新しいカタチ、すなわち、従来型の会合・会議のみならず、多様なニーズに柔軟に対応できる物的・人的両面でのインフラ整備が求められている。

そのため、プラサヴェルデにおける「**ウイズコロナ対応型へ向けた施設の改善**」について提言する。

現状の施設のWi-Fi環境



【提言③（１）】ハイブリッド型会議への対応

ア 通信環境の安定（Wi-Fi環境の充実）

現状のプラサヴェルデは、概ね高速な通信環境が整えられているものの、場所によってはWi-Fi環境が不十分なエリアも存在する。多様なニーズに応じた新しい形態での会議を行うためには不可欠の前提であるため、全館・全室で均一のWi-Fi環境が提供されるよう改めて通信環境を整備されたい。

また、秘匿性の高い情報を扱う企業・専門的な会議体に本館を選んでいただくためには、当然のことながらセキュリティ上のリスクへの配慮が求められる。その第一歩として、Wi-Fi環境の脆弱性を解消し、利用者にはパスワードで保護されたWi-Fiスポットが提供できるように環境を整備されたい

Q 7 Wi-fiは利用できますか。

A 利用できます。ただし利用範囲は限られ、会議室内でのご利用は有線LANを推奨しています。LANケーブルやルーターはご持参ください。

△プラサヴェルデHPより抜粋

【提言③（１）】ハイブリッド型会議への対応

イ オンライン配信専用ルームの設置および電源まわりの改善

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今やオンライン配信や、ハイブリッド型の会議が当たり前の時代に突入した。

しかしながら、そうはいつても、そのための設備は複雑で多岐に渡り、専門的な知識や充実した設備もどうしても必要になってくる。

更には、実際にそのような会議等を行う場合には、その機材を持ち込む必要もあり、気軽に行うにはまだまだハードルが高いのが現状である。

そこで、**プラサヴェルデ内において、オンライン配信やハイブリッド型の会議等を行える専用の部屋を設ける**ことで、利用者の負担を軽減し、気軽に行える環境を作ることが、他の施設との差別化にもつながり、利用者の満足度向上にもつながるものと考える。

また、オンライン配信が主流になっていることから、現状のプラサヴェルデにおいては、会議室のコンセントの数が十分ではない。電源タップについても、主催者側であらかじめ多数を用意持参し会議を運営した。

今後のハイブリッド型会議やリモートワークへのニーズの高まりに応じて、コンセント設置箇所の充実と、相当数の貸出用電源タップを準備されたい。



配信設備の揃ったウェビナールーム（新宿区）

【提言③（２）】テレワークのために人が集まる施設

沼津市は、日本経済新聞社が、人口10万人以上の285市区を対象に、テレワークに適した環境が整っているかを分析・採点した結果、全国で5位になった。このことは、コロナ禍におけるテレワーク環境の整備が充実している証しであり、企業だけでなく、コンベンション施設等でもより一層のテレワーク環境の整備が必要不可欠である。

東京を見てみると、丸の内ビル地下には、個室型のワークブースを設置することでフリースペースの利用を図るとともに、コロナの感染防止対策を整えている。

プラサヴェルデにおいても「**個室型ワークブース**」の設置などを行うことで、市民だけでなく、県外から来たビジネスマン等にもテレワーク環境を提供しより利用され、集客性の高い施設とすることを提言する。

<参考>

- 1位：滋賀県彦根市
- 2位：山形県酒田市
- 3位：甲府市松江市
- 5位：青森県弘前市・**静岡県沼津市**
- 7位：宮城県石巻市
- 8位：富山県富山市・静岡県富士市
- 10位：栃木県宇都宮市・佐賀県佐賀市・山形県鶴岡市・長野県松本市



丸の内ビル地下にある
個室型ワークブース

【提言③（３）】指定管理者のサービス向上に向けて

これまでになかった多様なニーズに柔軟に対応できる施設であるためには、人的なサービス（ソフト面）もより一層求められる。また、今後もプラサヴェルデが選ばれる施設であるために、利用者だけでなく、主催者満足に繋がる運営も求められる。

実際に、主催者は、施設を利用して感じたことや改善要望などがたくさんあるが、その声を届ける場所がなく、指定管理者に伝えても、すぐに改善されるには至らなかった。

これからは、**市が主催者や利用者の声を直接聞くことで、サービスの向上を主体的に行うことを望む。**特に主催者のアンケート等を直接受け取れる体制を作り、それを今後の指定管理者への監督・指導、またはサービス向上に役立ててもらいたい。

また、下記に利用者の声の一例を掲げるので、今後の運営の一助とされたく追記する。

【利用者の声の一例】

内容	意見
窓口対応	主催者のやりたいことが会場ルール上問題ないかの回答はしてくれるが、主催者のやりたいことがどうすれば可能になるか、ヒアリングを通して代替案などを提案してくれるとありがたい（コンシェルジュスタッフの存在など）
スタッフ間の知識	担当者によって知識・対応に差があるため、一般的な質問に関しては誰でも回答できるよう、スタッフ間の共有化をしてほしい
利用者アンケート	施設利用後に必ず主催者にアンケートに答えてもらい、その回答を活かしてほしい（コンベンション施設としての利用価値向上に向けて）
施設管理者の統一化	コンベンション施設は静岡県、キラメッセは沼津市と管理者が二分されており、備品等の共有ができないため解消してほしい
キャンセル	キャンセルポリシーがHP上に表示されていない やむを得ず、キャンセルをお願いする際の対応を明確化してほしい（キャンセル料の発生時期など）

3. 提言書作成メンバー

令和3年度 沼津商工会議所青年部 創意工富めまづ未来委員会



- 委員長・・・・・・・・吉川正明
- 副委員長・・・・・・・・加藤訓久、竹上真之、小栗雄介
- 行政連携チーム・・・・福原健、杉澤教人、杉森賢二、加藤明子
- 交通・利便性チーム・・・・佐藤喜紀、前橋将彰、飯田志隆、石川葉月、山田貴志
- 施設改善チーム・・・・山本陵、杉山欣央、宮澤章太、宇野正規、工藤慎也、千野真紀
- ウィズコロナチーム・・・・大房正征、佐野雅文、加藤利佳、山本益弘、寺地咲子、一場章文、
落合常夫、石川直人、杉本隼規
- 総務チーム・・・・杉山和宏、中村謙介、山中啓壽、鈴木貴博